

世界獣医師会大会 2026 東京大会 未来日記 (後編)

演題登録&参加登録が始まりました!

前号に引き続き、未来日記の形で来年4月に迫った世界獣医師会大会2026の後半2日間のご紹介をしてみたいと思います。前編を書いてみて、思ったよりも難しいことに頭を抱えておりますが、ここまで来たら最後まで頑張りますので、お付き合いください。

2026年4月23日(木) 3日目 晴れ

3日目ともなると、置いてきた仕事のことが気になりですが、快く送り出してくれた同僚への恩に報いるためにもしっかり学ばなければと気合を入れなおす。3日目も朝から再生獣医療、豚熱とアフリカ豚熱といった誰もが気になるトピックから、ジェンダーなどの社会的包摂性を扱うものまで非常に幅が広い。その中で自分は再生獣医療と、専門家としていつも理解が不十分と感じている薬物耐性のセッションに参加。同僚は東京都獣医師会会長である上野先生の企画である、ペットを飼うことによる飼い主の健康への好影響を科学的に紹介するセミナーに参加していた。再生獣医療については、人の医療で用いられ始めているものという認識を持っていたが、犬の血液細胞からiPS細胞が作成できることなどを知り目から鱗が落ちる思いであるとともに、獣医学が(人の)医学をリードする可能性も感じる事ができた。

この日はオフィシャルディナーがあり、自分の勤め先がスポンサーであることからその枠で参加。世界中から集まった獣医師が一つの部屋で歓談する様子は平和そのものであり、今この瞬間も世界のどこかで紛争が起きていることを忘れさせるものだった。また、日本獣医師会の藏内会長の声掛けにより、ワンヘルスの理念に共感して参画してくれたというブレイキンの選手たちによるパフォーマンスは圧倒的で、そのスピードや力強さはまさにアスリート。人間には不可能とさえ思える動きで場を大いに盛り上げてくれた。パリ五輪

の後の五輪では競技から外れると聞いたがぜひ復活させてもらいたいものだ。勢い余って、2次会は同僚と新橋のガード下へ。

2026年4月24日(金) 4日目 雨

今日は朝から雨。東京駅から地下通路で会場へ。あっという間に最終日の4日目だ。最終日もワンヘルスの市民講座や、哺乳類に対するインフルエンザの新たな脅威にスポットを当てたセッション、野生動物にシエルター獣医療と、最後まで知的好奇心を刺激する取組みであふれていた。また、閉会式ではワンヘルスをさらに具体的な取組みとして前進させるための「東京宣言」が発表されるなど、この大会を世界の獣医療の節目にしようという関係者の意気込みが感じられた。

また、昨日までの日記に書き忘れたが、都内や富士山へのツアーも用意されるとともに、茶道などの日本文化を体験する教室が会場内に用意されるなどして特に外国から来た参加者には好評を博していたようだ。こうして多くの専門家に日本文化に直に触れてもらい、親日の度を深めてもらうこともこうした大会の一つの目的なのだろう。東京観光財団の支援も受けているそうだ。

来年の獣医師会大会はメキシコのユカタン半島にあるメリダという都市で開催されるとのことで、藏内会長からメキシコ獣医師会の会長へ、世界獣医師会旗の授与式も行われていた。次回の大会は家族を連れて参加してみるのもいいかもしれない。おしまい。

世界獣医師会大会，東京大会 2026 の未来日記，いかがだったでしょうか。本当はまだまだ紹介したいことがたくさんあるのですが，皆さんが参加されるに当たっての具体的なイメージづくりに役立ちましたらなによりです。

来月以降もこの紙面で大会の魅力を皆様にお伝えできるよう引き続き頑張りますが，公式ウェブサイト¹に情報を随時アップ予定ですので，ぜひ(<https://wvac2026-tokyo.com/>) チェックしてみてください！